



明

倫

苫小牧市日新町3丁目5番13号

Tel. 0144-74-2146

Fax. 0144-74-2147

「子どもの心のコップを“自信の水”で満たす」

校長 池田 健人

不登校の子どもたちは、全国で一体どのくらいいるのでしょうか。10月4日に公表された文部科学省の「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると小・中学校の不登校の子どもたちは、全国で29.9万人を超え増加しています。本校も例外ではなく、不登校の生徒が増加傾向にあり、教室に入れないまたは入りたくない生徒のための学びの場（ステップアップ教室）を校内につくり個別のサポートを行ったり、SSW（スクールソーシャルワーカー）などの関係機関との連携を密にしながらその支援の方策を探ったりしています。

そのような中、ある教育関係者から紹介された本である『不登校は1日3分の働きかけで99%解決する（森田直樹著）』には、次のようなことが書かれてありました。（要約は左下）

『不登校は1日3分の働きかけで99%解決する（森田直樹著）』

- ・ 不登校の真の原因は自尊感情の低さによる「自信のなさ」である。
- ・ 不登校の「きっかけ」となった「ストレス」を乗り越える自信を失い、登校ができなくなっている。
- ・ 不登校は「自信の水不足の状態（自尊感情の低い状態）」と考えられる。
- ・ 不登校の子どもは、心のコップが小さく、自信の水は少ししかないので、補給されなければすぐ水不足となり、ストレスを乗り越えられなくなる。
- ・ 不登校の子どもを再登校に導くには、子どもの心のコップを強く大きく育て、自信の水をためて自尊感情を高めることが必要である。
- ・ 自信の水は親の「愛情」と「承認」からつくられる。
- ・ 「愛情」の言葉は「（子どもの様子を見て）うれしい!」、「承認」の言葉は「〇〇には☆☆の力がある!」である。
- ・ この言葉を子どもの「良さ（リソース＝資源）」の末尾に付けて気づかせることをコンプリメントという。
- ・ このコンプリメントを毎日3分間続けると「自尊感情を高める自信の水」がたまり、子ども自身の力で動き始める。

不登校の理由は様々で、いろいろな要因が複雑に絡み合っていることが多くあります。そのような児童生徒に対しては、特に、日常生活の中で「愛情」を言葉や態度でわかりやすく伝えたり、子どもの思いや言動を「承認」したりする場面が大切なのだと改めて考えさせられた一冊でした。

我が子との関係で困っていることはありませんか。学校と共に一緒に考えていきませんか。気になることがありましたら、いつでも学校にお知らせください。



第47期生徒会役員決定

10月13日（金）に、生徒会役員選挙がありました。生徒会の新体制発足に向けてのものです。各候補者とも真剣な眼差しのもと、立会演説会に臨みました。10月20日（金）に認証式があり、新しい生徒会スタッフにより活動が始まりました。



今まで3年生が中心を担ってきた明倫中学校ですが、いよいよ2年生の皆さんが中心になっていきます。3年生の皆さん、今までご

苦労様でした。そして、2年生の皆さんを中心によりよい学校を作っていきましょう。

会 長	〇〇 〇〇
副 会 長	〇〇 〇〇
副 会 長	〇〇 〇〇
書 記 長	〇〇 〇〇
書記次長	〇〇 〇〇
会 計 長	〇〇 〇〇
会計次長	〇〇 〇〇

2年生職業体験

10月25日（水）に2年生で職場体験学習を行いました。それぞれが興味のある職業を選んでの体験となりました。どの職場先でも、みんな一生懸命さがあり、大変有意義な時間となりました。体験を終えた子どもたちは、「やりがいがあった」、「大変楽しかった」などの感想を聞かせてくれました。



PTA校区内パトロール



10月18日（水）の部活動の下校に合わせて、PTAで校区内パトロールを行いました。季節的に17時30分ぐらいになると、暗くなり帰り道が心配になる時期になります。交差点など交通が心配なところ中心に見守り活動を行いました。特に問題なく子どもたちは下校していきました。PTAとしても、子どもたちの下校の様子がわかり、大変有意義な時間となりました。

中体連新人戦等の結果

【第65回日胆中学校アイスホッケー大会】第3位 【苫小牧市中体連バドミントン大会】
 【苫小牧市中体連野球大会】 1回戦惜敗 好ダブルス ベスト8 0000・0000 男子シングルス ベスト8 0000
 【苫小牧市中体連サッカー大会】 第3位 【苫小牧市中体連バレー大会】 決勝トーナメント敗退

11月は



「親子読書」強調月間です
 ～親子いっしょに、同じ時間に、同じ場所で～



苫小牧市教育委員会・苫小牧市立中央図書館

『親子読書』強調月間のお知らせ

11月は「親子読書」強調月間です。親子が共に本を読み、感想を話したり、おすすめの本を伝えたりする中で、子どもの夢を広げてみませんか。まずは、話題にすることから始め、できることを話し合うのはいかがでしょうか。親が活字に向かう姿勢を示すだけでも子どもたちに伝わるものがあるはずです。